

## 真の勝者は何処(いずこ)に！

### ＜令和5年度 市体育大会報告会(R5.6.28)校長講話＞

今ほど、のべ5日間にわたる市中学校体育大会の結果報告がありました。私も、可能な限り会場を廻って、多くの選手のみんなの奮闘ぶりを目にすることができました。たくさんの感動と勇気を皆さんからいただきました。

私は、バレーボール競技の大会役員になっていたため、丸2日間と半日、秋葉区総合体育館につめていました。二中のバレーボール部の皆さんは、県大会出場こそなりませんでしたが、最後まであきらめずボールを追い続ける必死のプレーだけでなく、あいさつ・礼儀・マナー・態度・チームワーク等がすばらしく、誇りに思える大会への参加ぶりでした。

さて、バレーボール競技は、N中学校が圧倒的な力を見せつけ大会5連覇を果たしました。多分県大会も順当に制し、全国大会にも進むのではないかとされているチームです。その四日前のトーナメント初戦でN中学校に当たったのは、Y中学校でした。対戦結果は、1-25, 1-25でY中学校はあっという間に負けてしまいました。Y中学校の1点も、相手のサーブミスによるものですから成す術もなく敗れたわけです。正直、Y中学校が何度挑戦しても、N中学校勝てる可能性は0だと言えるくらい実力差は歴然でした。

N中学校の卓越した技術や総合力は確かに見事でした。N中学校が私の学区の中学校であり、我が子の母校、長女の後輩チームであることもあり、N中学校の優勝が決してうれしくないわけではなかったのですが・・・。

しかし、N中学校とY中学校が対戦したその日の競技がす

べて終了し体育館を後にした私が、「勝ってほしかったなあ」と正直思ったのは、N中学校よりもY中学校なのです。

それは、次のような理由からです。

N中学校は、自分たちの試合が終わると、さっさと着替えを済ませると、私が気づく間もなくいつの間にか会場を後にしていました。

競技が終わってからの後かたづけやモップがけを最後まで丁寧にやってくれていたのはY中学校のみんなだったのです。特に、床に広げた長いシートを巻く作業がとても難しく、かなりの時間をかけみんなで協力しながら、何度も何度もやり直してくれました。すべての後かたづけが終了すると、みんなで整列して会場や先生方にさわやかな大きな声と笑顔で挨拶して解散しました。

もちろん、N中学校とY中学校の子どもたちのすべてがわかっているわけではありません。普段の学校生活や個々の人間性まではわからないわけですから、この日のこの場面、一断面だけを見て、また明らかに勝てる可能性がないのに、Y中学校に「勝ってほしかったなあ」という思いはいささか乱暴なのかもしれません。

ただ、言いたいことは一つだけです。それは、選手のみならず各部には、目先の一勝二勝、賞状やカップやメダルの獲得よりも、周囲から「勝ってほしいと願われる部」を目指してほしいということです。「勝てる部」ではなく、直接自分たちに関係のない人たちからさえも「勝ってほしいと願われる部」「いい思いをしてほしいと願われる人間」です。

そのためには、毎度毎度繰り返しますが、一人一人が、周囲から「愛され励まされ応援されるような人間」をめざすことであり、前号でも述べたように、『感謝』『謙虚』『モラル』のある生き方が大切だということです。

真の勝者とは何なのか。それを追い求めることこそが、部活動に打ち込む最大の意義なのです。